

予測課題3のポイント解説【平成28年度の設計課題「子ども・子育て支援センター(保育所、児童館・子育て支援施設)」】

【予測課題3について】

過去問を分析すると、センターによる試験課題は、市販書籍(A社、B社)にある程度類似するものの、必ず予測し難い内容が盛り込まれている。その内容は、要求室の数としては多くないが、全体を計画するうえで大きく影響する内容となっている。研究会としては、第一に「過去問の予測し難い内容」を取りまとめ、それに基づき「H28の予測し難い内容」を推定し、予測課題1と2を踏まえて予測課題3を作成した。ここでは、下記の項目で解説する。なお、エスキスの詳細及び記述の解答は、会員講座8章「2時間エスキス法」及び「記述解答」を参照して下さい。

- (1) H21～H27過去問分析によるH28の予測し難い内容の推定
- (2) 予測課題3の「課題」に関する解説
- (3) 要求室の「階振りと面積出し」の基本的な考え方
- (4) 「機能図」の基本的な考え方
- (5) 「1/1000エスキス」の基本的な考え方

(1) H21～H27過去問分析によるH28の予測し難い内容の推定

- ・H21～H27までの過去問に関して、課題と直接関係が少ない「予測し難い内容」について下表の通り取りまとめ、更にH28の予測し難い内容についても推定した。
- ・レストランは、過去に3回出題されているが、これが入ることで、地域住民との交流、地域との動線、建物内の食事供給への動線など検討項目が急激に増加して難易度が高くなる。
- ・防災備蓄倉庫は、H26に出題があり、H27には、課題での指定がなくても標準解答例に計画されている。その点を踏まえると、出題される可能性も高いが、出題されなくても計画した方が良いと言える。
- ・1階から3階までの吹抜けは、注記で指定のある「パッシブデザイン」を考慮すると、吹抜け部のトップライト等によるパッシブデザイン採用の誘導的位置づけから出題されるのではと推定した。

H21～H27過去問分析によるH28の予測し難い内容の推定	
課題	試験での予測し難い内容
H21 貸事務所ビル <small>(1階に展示用の貸スペース、基準階に一般事務用の貸スペースを計画する。)</small>	① 敷地が正方形ではない台形 ② 1階に課題と関係のない喫茶店 ③ 機械式駐車場(機械式駐車場の概略図が課題内にあり)
H22 小都市に建つ美術館	共用部門として「…子どもの美術学習・創作活動や地域住民の趣味の活動(以下ワークショップ)」を計画に盛り込み、下記の要求室がその条件となった。 ① ミュージアム ② アトリエ ③ 研修室 ④ 屋外創作広場(100㎡以上、7m以上の円、屋外創作広場はアトリエ・公園・遊歩道との動線配慮) ⑤ 共用部門に課題と関係のないレストラン
H23 介護老人保健施設 <small>(通所リハビリテーションのある地上5階建ての施設である。)</small>	① 病院に併設される施設での出題(病院との動線配慮) ② 1階に課題と関係のないレクリエーションルーム ③ 厨房が入所者とデイケア通所者の食堂の両方へ供給
H24 地域図書館 <small>(段床形式の小ホールのある施設である。)</small>	① 地下の設備スペース ② セブエントランスの設置と公園からの動線 ③ 小ホールを除き150㎡以上の吹抜け ④ 共用・管理部門に課題と関係のないカフェ
H25 大学のセミナーハウス	① 屋根は、2/10以上の勾配屋根 ② 無柱空間、高さ5m、心々10m以上のアトリエ ③ 食事やパーティ等多目的に利用する80㎡以上の屋外テラス ④ エントランスホールへの1階と2階の空間の連続性を考慮した吹抜け
H26 温浴施設のある「道の駅」	① 休憩・情報部門は、24時間利用できる計画(破線図示)とし、便所以外に30人利用、授乳室、キッズコーナー、自動販売機コーナー、公衆電話コーナー、情報パネル、案内カウンターを計画 ② 共用・管理部門に課題と関係のない多目的室 ③ 共用・管理部門に課題と関係のない防災備蓄倉庫 ④ 非常用の自家発電設備の設備スペース指定 ⑤ レストランと一体利用する50㎡以上の屋外テラス
H27 市街地に建つディサービス付き高齢者向け集合住宅 <small>(基礎免震構造を採用した建築物である。)</small>	① 共用部門に課題と関係のないレストラン(食事をディサービス部門へ供給) ② 共用部門に課題と関係のないギャラリー ③ 計画地は駅から200mの距離 ④ 東側道路は歩行者専用道路(21時～翌6時まで車両通行可)
H28 子ども・子育て支援センター <small>(保育所、児童館・子育て支援施設)</small>	【推定】 ① 共用部門に課題と関係のないレストラン(食事を保育所、子育て部門へ供給) ② 共用部門に課題と関係のない防災備蓄倉庫 ③ エントランスホールへの1階～3階の空間の連続性を考慮した30㎡以上の吹抜け (④ 屋外遊戯場、屋上広場…予測課題2と同じ)

(2) 予測課題3の「課題」に関する解説

・予測課題の解説は、「予測課題1」、「予測課題2」で詳細に解説した。この予測課題3では、留意事項のみを簡単に解説する。

I. 設計課題

この課題は、ある地方都市の市街地に保育所部門と児童館・子育て支援施設部門が一体となった「子ども・子育て支援センター」を計画するものである。本施設は、地域の子どもの遊び場の提供と、子どもを持つ親同士の交流の場を提供するものである。建物の設計をするに当たっては、環境に配慮したパッシブデザインを採用し、高天井に対する落下防止、地盤条件を考慮した基礎方式など安全性にも十分配慮して計画する。

1. 敷地及び周辺条件

- (1) 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、下図のとおりである。
- (2) 敷地は、平坦で、道路及び隣地との高低差はないものとする。また、歩道の切り開きは、1箇所あたり6mまでできるものとする。
- (3) 敷地は、近隣商業地域及び準防火地域に指定されている。また、建ぺい率の限度は、70%(特定行政庁が指定した角地における加算を含む。)、容積率の限度は300%である。
- (4) 電気、ガス及び上下水道は、完備している。
- (5) 地盤の状況は、N値50以上となる密実な砂礫層が深さ15m以上で堆積しており、表土から深さ15mに至る中間層のN値が0～10であり液状化の恐れはない。
- (6) 気候は温暖で、積雪についての特別な配慮はしなくてよい。

I. 設計課題の解説

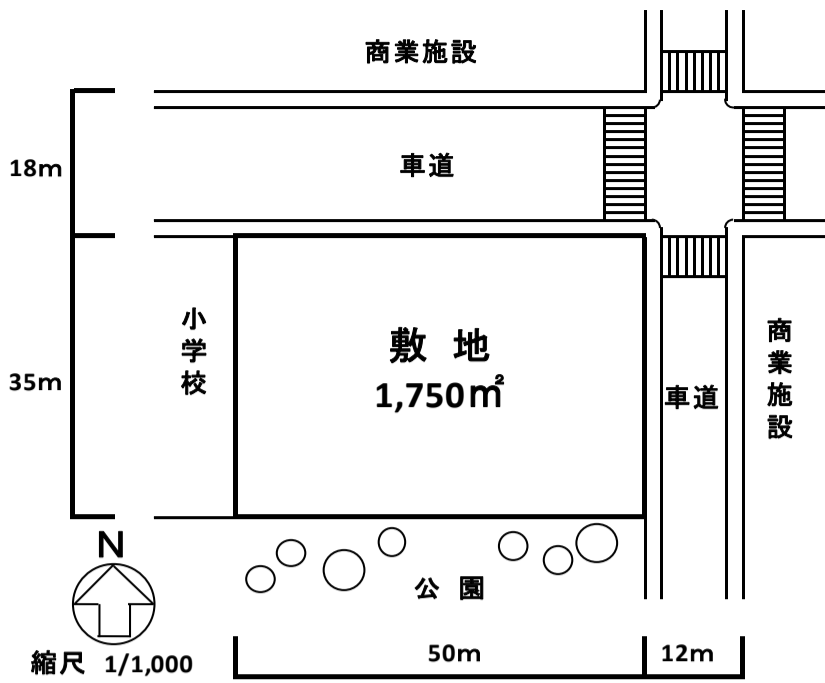
設計課題は、計画するための地域環境、計画目的、運営主体、施設機能などが書かれている。本課題では、「子育て支援の重要性」以外に、事前に課題発表で注意事項となったパッシブデザイン、高天井落下防止策、基礎方式についても触れている(=重要であるという主旨)。

1. 敷地及び周辺条件の解説

敷地及び周辺条件は、左記(1)～(6)までの内容は、(5)を除くと毎年出題される内容とほぼ同じである(定型文)。本課題では、(5)「地盤状況…」について、杭基礎を想定した課題とした。試験では、次のどちらかでの出題になるものと推定する。

- ① 支持層が-3m未満にある場合 ⇒ベタ基礎を想定
- ② 支持層が-10m以上にある場合 ⇒杭基礎を想定

※地盤状況を考慮したベタ基礎、杭基礎の詳細については、会員講座8章「地盤条件による基礎構造」を参照下さい。



敷地図の解説

敷地図は、敷地形状(寸法)と面積、接道条件、周囲環境が示される。

市販書籍の敷地は、1例を除くとほぼ1,800㎡前後であり、横50mは6例、縦36mは4例であったことから、予測課題2は、1,800㎡、50m×36m敷地とした。

予測課題3では、過去のセンター出題課題の敷地が下記状況であることから、1,750㎡、50m×35m敷地とした。

【直近過去4年間のセンター出題課題の敷地】

H27出題課題:1,750㎡、50m×35m
H26出題課題:1,750㎡、50m×35m
H25出題課題:1,800㎡、50m×36m
H24出題課題:1,750㎡、50m×35m

2. 建築物

(1) 構造・階数等
構造種別は自由とし、地上3階建ての1棟の建築物とする。

(2) 床面積の合計
床面積の合計は、2,000㎡以上、2,400㎡以下とする。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー、屋外階段等については床面積に算入しないものとする。

(3) 要求室
下表の室は、すべて計画する。

2. 建築物の解説

建築物は、構造種別と階数、床面積範囲、要求室(一覧表)が示される。
構造種別は、例年自由であり、階数は、公表により3階建てとなる。
予測課題3の床面積は、下限値と上限値との幅を厳しめの400㎡「2,000㎡以上、2,400㎡以下」とした。

部門	室名	特記事項	床面積
保育所部門	遊戯室	・幼児向けの遊戯室とする。	約80㎡
	保育室	・2歳～5歳児用に各1室(約40㎡)を設ける。 ・食事は、レストランの厨房で調理する。 ・屋外遊技場との動線に配慮する。	計約160㎡
	乳児・ほふく室	・0歳児、1歳児を対象とし、調乳室、沐浴室を設ける。	適宜
	医務室		適宜
	幼児用便所	・男女兼用とする。	適宜
	保育所ロビー	・ベビーカー置場を設ける。	適宜
児童館・子育て支援施設部門	プレイルーム	・天井高は6m以上とする。 ・無柱空間とする。 ・屋外広場と一体的に利用できるようにする。	約150㎡
	子育てルーム	・交流スペース(約80㎡)を設ける。 ・ベビールーム、相談室を設ける。 ・談話兼情報コーナーを設ける。 ・下足箱、ベビーカー置場を設ける。	適宜
	子育て集会室	・子育て支援の会議等に利用する。	約80㎡
	図書室	・児童を対象とする。	約80㎡
	多目的室	・食事をする場合は、レストランの厨房で調理する。	適宜
	静養室	・プレイルームの設置階に計画する。	適宜
	事務室	・各階に計画し、受付カウンターを設ける。	適宜
	更衣控室	・職員用として男性用、女性用を各1室設ける。	適宜
	施設長室	・机、いす、ソファ等を設ける。	適宜
	職員休憩室	・保育所部門及びレストランの職員も利用する。 ・湯沸室を設ける。	適宜
	ロビー	・受付カウンターを設ける。	適宜
共用部門	エントランスホール	・風除室を設ける。 ・1階から3階まで30㎡以上の吹抜けを設ける。 ・ベビーカー置場及び受付カウンターを設ける。	適宜
	レストラン	・40人程度が利用できるようにする。 ・テーブル、いす等を設ける。 ・厨房を設け、保育所部門と児童館・子育て支援施設部門への食事も供給する。 ・エントランスホールから利用できるようにする。 ・地域住民も外部から直接利用できるようにする。	適宜
	事務室兼保育士室	・6人分の事務スペース、受付カウンターを設ける。 ・保育所部門の保育士事務室も兼ねる。	適宜
	更衣室	・職員用として男性用、女性用を各1室設ける。	適宜
	防災備蓄倉庫	・内部及び外部からの利用に配慮する。	適宜

・便所及び倉庫については適切に計画する。
・採用した設備計画に応じて、設備機械室(空調、給排水、電気、消火等)、屋外機器置場等を計画する。
・その他必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。

要求室一覧表の解説

要求室は、一覧表として部門、室名、特記事項、床面積が示される。

各要求室については、市販書籍を参考にした予測課題2に準拠している。
更に、予測し難い内容として、下記内容を組込んで予測課題3の要求室とした。

① エントランスホール:1階から3階まで30㎡以上の吹抜けを設ける。
② レストラン:40人程度利用、外からもエントランスホールからも利用、厨房から保育所部門と児童館・子育て支援施設部門へ供給する。
③ 防災備蓄倉庫:内部及び外部からの利用に配慮する。

3. その他の施設等

- (1) 地上に保育所部門の幼児の遊び場として屋外遊技場250㎡以上(上部に屋根、ひさし等がある部分は算入しない。)を設ける。屋外遊技場は、保育室と一体で利用できるようにし、砂場、ぶらんこ、鉄棒、すべり台、足洗い場等を設置する。
- (2) 1階又は2階の屋上に児童が利用する屋外広場80㎡以上(上部に屋根、ひさし等がある部分は算入しない。)を設ける。
- (3) 駐車場は、車いす利用者用として1台分、サービス用として1台分を設ける。なお、施設利用者用、職員用の駐車場は、公園駐車場を利用するものとし、考慮しなくてよい。
- (4) 自転車置場は、施設利用者用として30台分を設ける。
- (5) (1)～(4)の「その他の施設等」は、床面積に算入しないものとする。

4. 計画に当たっての留意事項

- (1) 建築計画については、次の点に留意して計画する。
 - ① 建築物はバリアフリー、セキュリティ等に配慮する。
 - ② 保育所部門、児童館・子育て支援施設部門とを適切にゾーニングし、明快な動線計画、避難等に配慮する。
 - ③ 自然採光及び自然通風を積極的に取り入れる計画とし、日射の遮蔽に配慮する。
 - ④ 敷地の周辺環境に配慮する。
- (2) 構造計画については、次の点に留意して計画する。
 - ① 建築物全体が、構造耐力上、安全であるように計画するとともに、経済性にも配慮する。
 - ② 構造種別、架構形式及びスパン割りを適切に計画する。
 - ③ 地盤状況に配慮し、基礎方式を適切に計画する。
 - ④ 部材の断面寸法を適切に計画する。
- (3) 設備計画については、次の点に留意して計画する。
 - ① 空調設備、給排水衛生設備、電気設備、消火設備等を適切に設け、環境負荷低減に配慮する。**空調方式**は、プレイルームの空調を単一ダクト方式とし、その他の室は空冷ヒートポンプパッケージ方式とする。**給水設備**は、受水槽方式とする。
 - ② エレベーターを適切に設ける。

3. その他の施設等

その他としては、市販書籍で**屋外遊技場**が8例、**屋外広場**が6例あったので、予測課題2と同様に、予測課題3でも組込んだ。

駐車場は、市販書籍で車いす駐車場が1台6例、2台2例であり、サービス駐車場は8例全てで1台、駐輪場は7例で30～50台分であることから、**予測課題3**では、車いす駐車場1台、サービス駐車場1台、駐輪場30台とした。

4. 計画に当たっての留意事項

計画に当たっての留意事項は、建築計画、構造計画、設備計画で2～4項目の記載がある。ここは、ほぼ定型文であるが、過去に「(3)設備計画」については、何度か指定されていることから、予測課題3では、下記の通り空調方式と給水設備で指定した。

- ①空調方式:プレイルームは単一ダクト方式
- ②空調方式:①以外は空冷ヒートポンプパッケージ方式
- ③給水設備:受水槽方式

II. 要求図書

答案用紙Ⅰ及び答案用紙Ⅱの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面(答案用紙Ⅰに記入)

下表より、所定の図面を作成し(フリーハンドでもよい。)、必要な事項を記入する。
なお、各図面には、計画上留意した事項について、簡潔な文章や矢印等により補足して説明しても良い。

図面及び縮尺	特記事項
(1) 1階平面図 兼配置図 1/200	① 各階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の主要寸法(柱割り及び床面積の計算に必要な程度) ロ. 室名等 ハ. 要求室の床面積
(2) 2階平面図 1/200	ニ. 設備シャフト【(パイプシャフト(PS)、ダクトスペース(DS)、電気シャフト(EPS)】の位置 ホ. 設備計画に応じた設備スペース
(3) 3階平面図 1/200	ヘ. 断面図の切断位置 ト. 要求室の特記事項に記載されている什器等
(4) 断面図 1/200	② 1階平面図兼配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 建築物の出入口 ロ. 敷地内の駐車場、駐輪場 ハ. 屋外遊技場 ニ. 通路、植栽等 ③ 2階平面図又は3階平面図には次のものを図示又は記入する。 イ. 1階の屋根、ひさし等となる部分 ロ. 屋外広場 ハ. 2階居室の最も遠い位置から避難階段の一に至る歩行距離及び経路 ニ. 3階居室の最も遠い位置から避難階段の一に至る歩行距離及び経路
	① 断面位置は、プレイルームを含み、建築物の全体の立体構成がわかる断面とする。 なお、水平方向、鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 搭屋を除く建築物の高さ、階高、天井高、1階床高及び主要な室名を記入する。 ③ 基礎(一部省略してもよい)、梁及びスラブの断面を図示する。 ④ 屋上に設備スペースを設けた場合は図示する。

II. 要求図書

1. 要求図面(答案用紙Ⅰに記入)

ここは、毎年ほぼ定型文である。

要求図書の一覧表

要求図書の一覧表は、1階平面図兼配置図、2階平面図、3階平面図、断面図に対して記載すべき特記事項が書かれている。ここも殆どが定型文である。

本内容は、予測課題2と同じである。歩行距離は、2階と3階での記載、断面位置は、高天井のあるプレイルームを切断指定とした。

2. 面積表(答案用紙Ⅰに記入)

地上1～3階の床面積及びその合計を記入する。なお、各階の床面積については、その算定式も記入する。

3. 計画の要点等(答案用紙Ⅱに記入)

- (1) 建築計画について、次の①～④の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - ① 建物アプローチ及び動線について考慮したこと
 - ② パッシブデザインの観点から工夫したこと
 - ③ 高天井であるプレイルームの天井等落下防止対策として工夫したこと
 - ④ 保育所部門の防犯と安全性について考慮したこと
- (2) 構造計画について、次の①及び②の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - ① 建築物に採用した構造種別、架構形式及びスパン割りとこれらを採用した理由
 - ② 地盤条件を考慮して採用した基礎方式と採用した理由
 - ③ 耐震計画について配慮したこと
- (3) 設備計画について、次の①～③の要点等を具体的に記述する。なお、要求図面では表せない部分についても記述する。
 - ① EPS及びPS(排水)の配置計画について考慮したこと
 - ② 地震等の災害において設備機器の損傷防止及び3日間程度の断水、停電への対応策を記述すること
 - ③ 空調設備、給湯設備及び電気設備の機器選定において環境負荷低減(省エネルギー等)に関して考慮したこと

2. 面積表

面積表は、左記のような定型文である。

3. 計画の要点

予測課題3は、建築計画4問、構造計画3問、設備計画3問の合計**10問**とした。予測課題2と異なる点は、(3)設備計画の①「EPS及びPSの配置計画」のみである。予測課題2では、空調方式が指定となっていないので、大空間となるプレイルームの空調方式を問う問題としたが、予測課題3では、空調方式を指定したので、この点を変更してPS等の問題とした。

左記内容のほか、予測できる**記述問題**は、会員講座8章「記述解答例」で解説をしているので、そちらを参照して頂きたい。

(3) 要求室の「階振りと面積出し」の基本的な考え方

「課題読み」が終了したのち、課題文の要求室の一覧表(左右の開いているスペース)を使って各室の床面積求め、階想定と合計床面積を計算する。この床面積が設計条件「2,000㎡以上、2,400㎡以下」で概ね納まるかは、ここでチェックする。

階想定は、左の空欄を利用して、1階、2階、3階で振り分ける(第1候補○、第2候補△)。㎡数指定のある要求室は、「約」であるならば、その指定数値の上下10%以内に納める。「適宜」の㎡数は、一般に、その要求室に関する算定係数を乗じて求める。ただし、医務室、相談室、保育室、事務室等は、この段階で20㎡程度と想定して記載すると良い。この合計床面積の算出は、床面積(ここでは2,000㎡以上、2,400㎡以下)に対して、廊下等を加味した1.3倍の合計床面積に納まっているかを確認する。この段階では、各室の床面積を詳細に求めるよりもスピードを重視すると割り切って概算値を求めた方がよい。

更に、ここでは、階床面積に対して1.3倍(廊下等分)を乗じた参考最小値を求め、 $7 \times 7 = 49\text{㎡}$ 、 $7 \times 6 = 42\text{㎡}$ で除して「最少コマ数」を出しておく。この最小コマ数は、次のエスキスでグリッドを7×7、7×6のどちらとするかの決定要因となる。

階想定
階振りの考え方は以下の通りである。
屋外遊技場及び避難から保育所部門及び共用部門は1階。
児童館部門と子育て支援施設部門は、2階又は3階設置が望ましい。プレイルームは、高天井となることから2階設置とすることで、2階と3階の無柱、梁無による大空間を構造的負荷が無く計画できる。

階㎡数
階㎡数は、階想定に基づき概算㎡数を決めて、床面積合計が指定条件内に納まるかを判断する。
この段階では、あくまで概算であり、スピードを重視する。従って、事務室、医務室、施設長室、更衣室などは、全て20㎡として求めると早く計算できる。
この計算をする場合、2階に設置する屋外広場、大空間となるプレイルームの上階部分、1階から3階吹抜けとなる2階と3階部分を面積に加えて計算する。

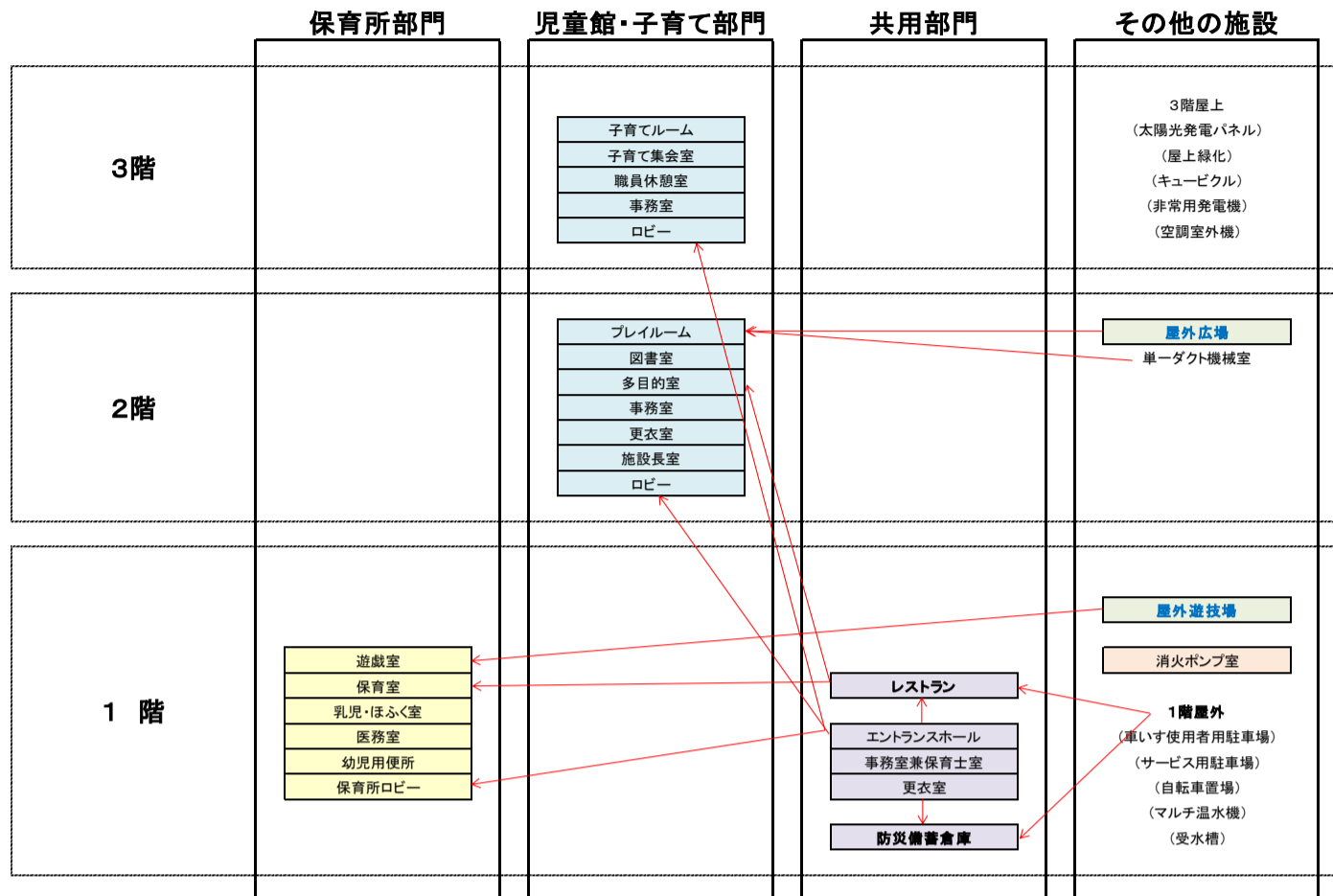
階想定			部門	室名	特記事項	床面積	階㎡数		
1階	2階	3階					1階	2階	3階
○			保育所部門	遊戯室	・幼児向けの遊戯室とする。	約80㎡	80		
○				保育室	・2歳～5歳児用に各1室(約40㎡)を設ける。 ・食事は、レストランの厨房で調理する。 ・屋外遊技場との動線に配慮する。	計約160㎡	160		
○				乳児・ほふく室	・0歳児、1歳児を対象とし、調乳室、沐浴室を設ける。	適宜	40		
○				医務室		適宜	20		
○				幼児用便所	・男女兼用とする。	適宜	30		
○				保育所ロビー	・ベビーカー置場を設ける。	適宜	80		
	○		児童館・子育て支援施設部門	プレイルーム	・天井高は6m以上とする。 ・無柱空間とする。 ・屋外広場と一体的に利用できるようにする。	約150㎡		150 外80	上150
		△		子育てルーム	・交流スペース(約80㎡)を設ける。 ・ベビールーム、相談室を設ける。 ・談話兼情報コーナーを設ける。 ・下足箱、ベビーカー置場を設ける。	適宜			160
	△	○		子育て集会室	・子育て支援の会議等に利用する。	約80㎡			80
	○	△		図書室	・児童を対象とする。	約80㎡		80	
	○	△		多目的室	・食事をする場合は、レストランの厨房で調理する。	適宜		80	
	△	○		静養室	・プレイルームの設置階に計画する。	適宜			20
	○	○		事務室	・各階に計画し、受付カウンターを設ける。	適宜		20	20
	○	△		更衣控室	・職員用として男性用、女性用を各1室設ける。	適宜		20	
	○	△		施設長室	・机、いす、ソファを設ける。	適宜		20	
	△	○		職員休憩室	・保育所部門及びレストランの職員も利用する。 ・湯沸室を設ける。	適宜			20
	○	○	ロビー	・受付カウンターを設ける。	適宜		100	100	
○			共用部門	エントランスホール	・風除室を設ける。 ・1階から3階まで30㎡以上の吹抜けを設ける。 ・ベビーカー置場及び受付カウンターを設ける。	適宜	80	吹30	吹30
○				レストラン	・40人程度が利用できるようにする。 ・テーブル、いす等を設ける。 ・厨房を設け、保育所部門と児童館・子育て支援施設部門への食事も供給する。 ・エントランスホールから利用できるようにする。 ・地域住民も外部から直接利用できるようにする。	適宜	120		
○				事務室兼保育士室	・6人分の事務スペース、受付カウンターを設ける。 ・保育所部門の保育士事務室も兼ねる。	適宜	20		
○				更衣室	・職員用として男性用、女性用を各1室設ける。	適宜	20		
○				防災備蓄倉庫	・内部及び外部からの利用に配慮する。	適宜	20		
・便所及び倉庫については適切に計画する。 ・採用した設備計画に応じて、設備機械室(空調、給排水、電気、消火等)、屋外機器置場等を計画する。 ・その他必要と思われる室等は、適宜計画するものとする。									

①小計	670	580	580
①小計×1.3(廊下等)	871	754	754
合計	2,379(目安)		
「①小計×1.3(廊下等)」によるコマ数検算			
7×7コマ数(*49)	18コマ	16コマ	16コマ
7×6コマ数(*42)	21コマ	18コマ	18コマ

この段階で、求めた小計①×廊下等面積考慮の1.3倍を乗じた面積が、7×7mグリッド又は7×6mグリッドに納まるかを確認する。
コマ数の考え方は、7×7mグリッドならば、横6コマ×縦3コマの合計18コマに納まるか、7×6mグリッドならば、横7コマ×縦3コマの21コマで納まるかで判断すると良い。ここで、各階が18コマまたは21コマに納まるならば、概ね50m×35m敷地でうまく計画できると判断できる。

(4) 「機能図」の基本的な考え方

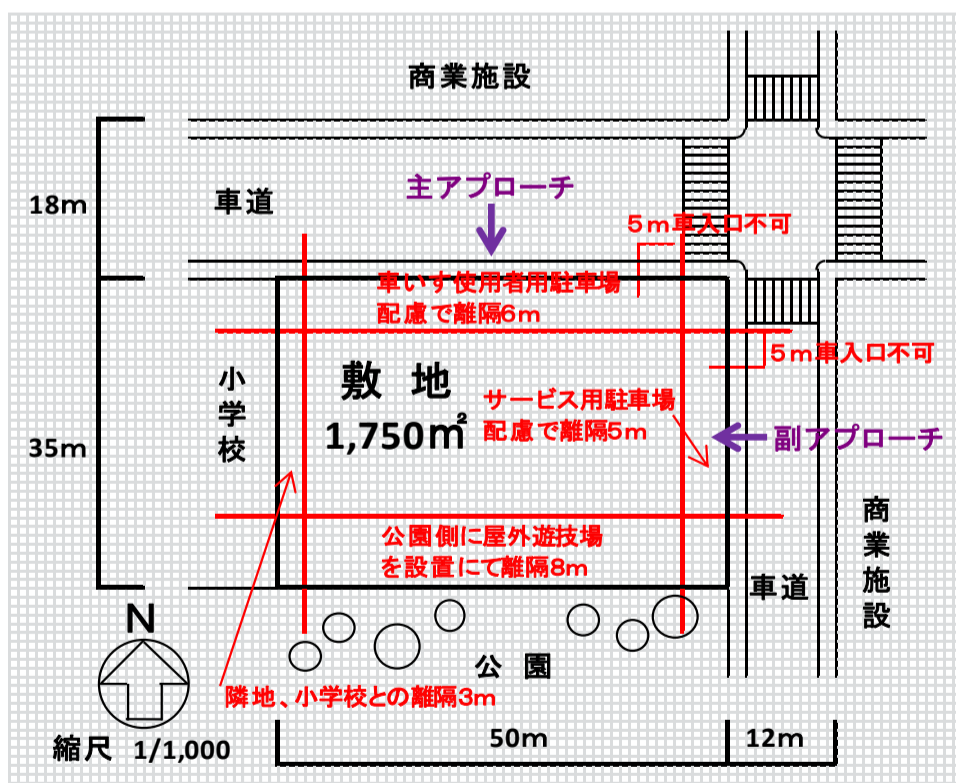
予測課題3の機能図を以下に示す。
機能図は、部門(その他の施設含む)と階数と要求室の関係が一目で分かるようにする。矢印は、動線の繋がりを示す。
予測課題3の機能図は、基本的に予測課題2の機能図に、予測し難い要求室(レストラン、防災備蓄倉庫)が加わったものである。



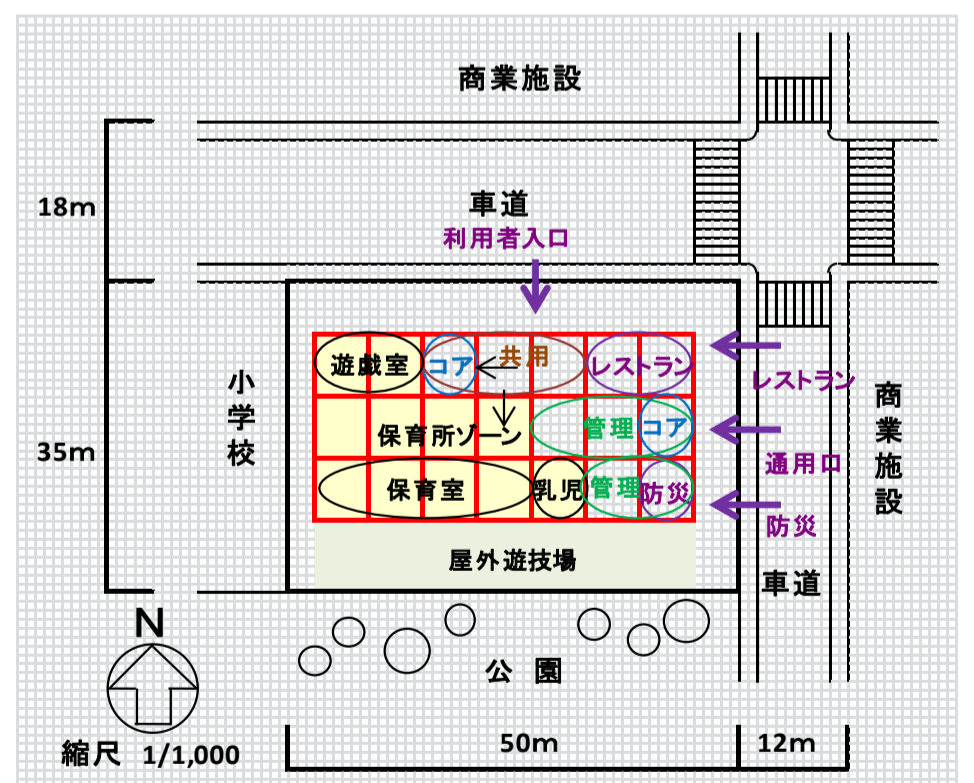
(5) 「1/1000エスキス」の基本的な考え方

「1/1000エスキス」は、①建築可能範囲、②グリッドスパン確定、③要求室の1/1000グリッド割付を手順通りに検討する。
建築可能範囲を決めてから次にグリッドスパンを確定する。作図スピード及びエスキスのし易さ等を踏まえ、7×7グリッドか、7×6グリッドかのどちらかで決定する。「面積出し」の段階で既にグリッドにおける最大コマ数を算出しているため、それを参考にする。

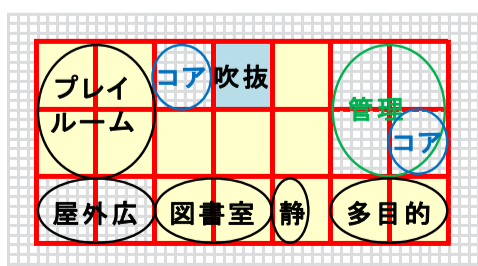
予測課題3の建築可能範囲、1/1000エスキスイメージ図(1階、2階、3階)を書き示す。
本計画では、40㎡要求室が多いことも加味して、7×6グリッドで計画している(予測課題1と2が7×7mグリッドで計画しているのと比較参考ともなる)。予測課題3で難しいのは、レストランの外部及び内部動線である。特に、外部から直接入る動線と、内部では利用者と共に、レストラン厨房からの保育所部門及び児童館・子育て支援施設部門への食事供給の動線である。これらの動線については、利用者と管理者の動線が交錯しないように配慮しないといけない。



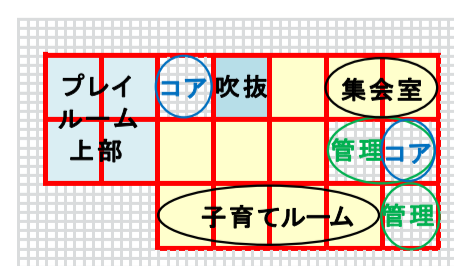
図(4)-1 建築可能範囲



図(4)-2 1/1000のイメージゾーニング(1階)



図(4)-3 1/1000のイメージゾーニング(2階)



図(4)-4 1/1000のイメージゾーニング(3階)